

2023年5月14日 臨時理事会議事録

日時：2023年5月14日（日）12：12～13:35

場所：労働プラザ9階特別会議室

参加者：神保（武）、田中、金山、吉本、玖島、佐々木、奥原、佐藤（隼）、佐藤（範）、
澤口、遠藤、望月、神田、青木、山勢、神保（洋）、錠内、野々垣（敬称略）
池田選挙管理委員長、廣瀬選挙管理委員

欠席者：野本・和田

審議事項

1 三役立候補者の確認

池田選挙管理委員長から三役互選に関する手順の説明がなされたのち、会長、副会長、事務局長の立候補を募った。

- 1) 会長立候補者 神保武則理事（北里大学病院）
- 2) 副会長立候補者 田中ゆかり理事（藤沢市医療保健センター）
吉本雅一理事（湘南鎌倉総合病院）
- 3) 事務局長立候補者 玖島弘規理事（横浜旭中央総合病院）

2 会長の選出

神保理事が立候補理由を述べたのち、質疑応答を行った。

1) 立候補理由

「成長する県士会」の具現化・推進を図っていく。それにあたり、永年会員制度や人材バンク作成による人材の流出を防ぐ。次に、行政との信頼関係を築き、会員にわかりやすく提示したい。また、事務管理整理・働き方改革を多内、県士会活動が永続的に行うため、足並みをそろえて推進していく。

2) 質疑・応答

金山理事：行政との信頼関係にあたり、各市町村へは会長自ら赴くのか。

→エリア化や地域リハ等の各部門を通じて行政の方々とやりとりしたい。

澤口理事：作業療法士が働く職域は幅広くなっている。県だけでなく政令指定都市には足を運んでほしい。可能であれば担当となる部門の理事にも声をかけてほしい。

遠藤理事：人材バンクのイメージをどう考えているか。

→育成機関の課題（育成できない）はあるが、育成する者が退職してしまう課題もある。退職後、退いてしまう優秀な会員も多く、人材バンクで引き留めて産休・育休等人手不足の現場への派遣を検討したい。

遠藤理事：トリプル改定について県士会としてどう考えるか。

→介護・障害分野にフォーカスされていくだろう。地域共生社会の実現に向けて

情報をアップデートしていく。また、2024～2027年の第8次医療計画では、生産人口の減少も考慮されている。会員管理を通じてサポートできる体制づくりを考えている。

遠藤理事：会員への情報発信をお願いしたい。情報を得るために他団体ともパイプを強くして行ってほしい。県から委託事業について打診されることもあるので会員情報についての把握も進めてほしい。

佐々木理事：組織改編・エリア化・公益法人化のビジョンをどう考えるか。

→速やかな組織改編を行う。効率化・事務局機能強化のため、会員管理のシステム化を目指していく。また、協会員＝士会員については遅くとも1年かけて伝達していく。新理事に対してはオリエンテーションを通じて今までの流れを伝達していく。HPやニュースを通じて進行状況を会員に伝えていきたい。

⇒立候補者が定数のため無投票にて当選となる。

3 副会長の選出

くじびきにより田中理事、吉本理事の順で候補理由を述べたのち、質疑応答を行った。

1) 立候補理由

田中理事：「会員一人一人がつくる県士会」を目標に、県士会活動に参画しやすい組織づくりをサポートしていきたい。縦割り組織から横ぐし・横のつながり強化し協同していく。理事一人ひとりも県士会に積極的に参画していく意識高める。行政との連携では、今まで関わっていない地域に赴きたい。

吉本理事：今まで福利部で会員増に関する取り組み会員と向き合ってきた。また財務部ではお金の流れという視点で当会全体を見渡し継続して活動ができるシステムづくりを推進してきた。昨年度までは事務局長として各部署との連携を通じて、様々な課題に対して向き合い、理事会とともに再構築してきた。また対外的な活動を他団体と連携し、地域で活躍できる人材育成も検討していきたい。現在、理事は部長を兼任しているが、各部署の運営に時間を割かれてしまい当会の運営全体に積極的に関わる事ができないこともあることも課題としてある。理事全員が当会の代表として適切な運営に関わり活動していけるようサポートしていきたい。

2) 質疑・応答

佐藤（隼）理事：田中理事にお聞きしたい。女性の県士会活動の参画について考えをお聞きしたい。

田中理事→オンラインの活用により、子育て中でも参加しやすくなっているよ

うに思う。学会や研修会の参加を通じて県士会に参画してほしい。その一方で、理事に関しては業務量も多く、家族のサポートが必要。介護・育児・仕事とたくさんの役割があっても参加しやすいサポート作り、単発イベントへの参加などの環境作りもしていきたい。

佐藤（範）理事：副会長として三役と理事をつなぐマネジメントについて両理事にうかがいたい。

田中理事→ワーキングを通じて、理事間の協同は行えた。今後は部員もまきこんだ部門を越えた企画も考えたい。財源の問題もあり、オンラインを活用する。

吉本理事→：事務部門の横のつながり強化し協働していきたい。協働することで業務の効率化が図れると考える。また研修会や情報発信という対外活動部門とも協働について検討したい。

佐藤（範）理事：代議員などのつながりも含めて検討していただきたい。

遠藤理事：会員増のために、養成校とのつながりを強めていってほしい。養成校だけでなくセラピスト数が多い病院とも協力体制について検討してほしい。

田中理事→部員で活躍している会員を取り込みたい。管理者レベルの集まりは継続したい。

吉本理事→代議員からも会員の減少を危惧する声がある。養成校だけでなく代議員をはじめとした会員の皆さんにも、新人職員向けに当会入会への案内について協力をいただきたい。また、新入職員自身も業務以外に余裕がないこと多く、職場だけでは入会促進は限界がある。県士会の活動も通じて作業療法士の教育育成を図り、現場の職員が安心して働けるよう支援を進めていきたい。

遠藤理事：新カリキュラムがはじまり、より卒後教育が重要になる。管理者レベルと県士会がつながることが大事ではないか。

⇒立候補者が定数のため無投票にて当選となる。

4 事務局長の選出

玖島理事が立候補理由を述べたのち、質疑応答を行った。

1) 立候補理由

法人管理が重要になってくると考える。基盤作りが必要。会員・学生・県民と幅広く関わる上でも裏方としてサポートしていきたい。そのためにも効率化やタスク・シフトの検討、専門家の導入について各部門から意見を聞きながら進めていきたい。

2) 質疑・応答

澤口理事：三役会の回数が多く、負担が多いように思う。運営委員会のような理事を活用できるシステムづくりやソフト面も検討してほしい。

→審議内容を精査し、内容によりメール審議、理事会審議等と使い分けていき

たい。

佐々木理事：会員システムの構築について。学術部はイノベーションが進み、負担が減った。

必要な経費について精査し、導入に向けた金銭面の構築も必要では。

→会計ファイルはエクセルを用いるなどアナログな状況。財務部や各部門と協力しながら進めていきたいが、情報があれば共有してほしい。

吉本理事：専門家の導入について、具体的にはどのように考えているのか。また専門家の導入に関して、財務面だけでなく、事務局業務や会員情報の取り扱い等についてもどのように考えているか。

→税理士、弁護士、行政 司書等、必要に応じて検討したい。会員数の増加に伴い情報更新に時間がかかっているため、システムの効率化や協力を得ながら改革していきたい。

⇒立候補者が定数のため無投票にて当選となる。

以上より、会長に神保武則理事（北里大学病院）、副会長に田中ゆかり理事（藤沢市医療保健センター）と吉本雅一理事（湘南鎌倉総合病院）、事務局長に玖島弘規理事（横浜旭中央総合病院）が決まった。

5 会長挨拶

神保会長より以下の挨拶がある。

会員や県民と向き合うことを強化していきたい。また協会は2024年までに協会員＝士会員、2025年からシステム統一を行うとっているが、詳細は不明。全国6番目の会員数となっている。組織力が必要。皆で協力しながら楽しい理事会運営を行っていきたい。

6 個人情報取扱業務概要説明書について

神田理事より、総会で「一般社団法人日本作業療法士会との「会員の個人情報の取り扱いに関する覚書」に関する締結について承認されたことを受け、当会の個人情報取扱業務概要説明書の変更について審議した。

「実現促進」という文言についての確認や目的の補足、個人情報の提供方法について質問があった。⇒賛成多数で承認された。

7 その他

1) 次回理事会日程

6月15日（木）19：00～オンラインにて開催予定。部員の承認予定。

2) 予算の執行について

現在事業を引き継いでいるものに関しては支払いが可能であるが、それ以外は立替で対応してほしい。

3) 監事から

錠内監事：滞りなくすすめられた。会長は2期4年が一つの区切りであることが多い。

次の2年で課題を解決するよう会長にはますます頑張ってもらいたい。会長でないと判断できないこともある。三役には忌憚のない意見交換、理事には意見を会長に伝えることを望む。

組織改編によって事務局の負担が増すことが予測されるため、業務分担は進めてほしい

野々垣監事：ワークライフバランスという観点からも事務局長の負担は大きいように思う。皆で協同してほしい。

以上、文責 廣瀬選挙管理委員、金山